

JICA 環境社会配慮助言委員会 第 142 回全体会合

2022 年 11 月 7 日(月) 14:00～17:00

JICA 本部 オンラインおよび JICA 会議室

議事次第

1. 開会

2. WG スケジュール確認

3. 案件概要説明（ワーキンググループ対象案件）

- (1) セネガル国ンダヤン多機能港開発マスタープラン策定プロジェクト（開発計画調査型技術協力）スコーピング案（未定）

4. ワーキンググループ会合報告および助言文書確定

- (1) カンボジア国プノンペン都洪水防御・排水改善事業（協力準備調査（有償））スコーピング案（10 月 21 日（金）開催）
- (2) アンゴラ国南部送電系統増強事業（協力準備調査（有償））ドラフトファイナルレポート（10 月 31 日（月）開催）
- (3) インド国パटनाメトロ建設事業（協力準備調査（有償））ドラフトファイナルレポート（10 月 28 日（金）開催）

5. 今後の会合スケジュール確認他

- ・次回全体会合（第 143 回）：2022 年 12 月 2 日(金) 14:00 から（於：オンライン会議）

6. 閉会

以上

**セネガル国
ンダヤン多機能港開発マスタープラン
策定プロジェクト
(開発計画調査型技術協力)
-環境社会配慮助言委員会-
～全体会合概要資料～**

- 2022年11月7日
- JICA社会基盤部

1. 事業の背景
2. 事業の概要
3. 環境社会配慮基本事項
4. 環境社会配慮方針の概要
5. 助言対象
6. 今後のスケジュール(予定)

1. 事業の背景

【セネガルにおける港湾セクターの概要】

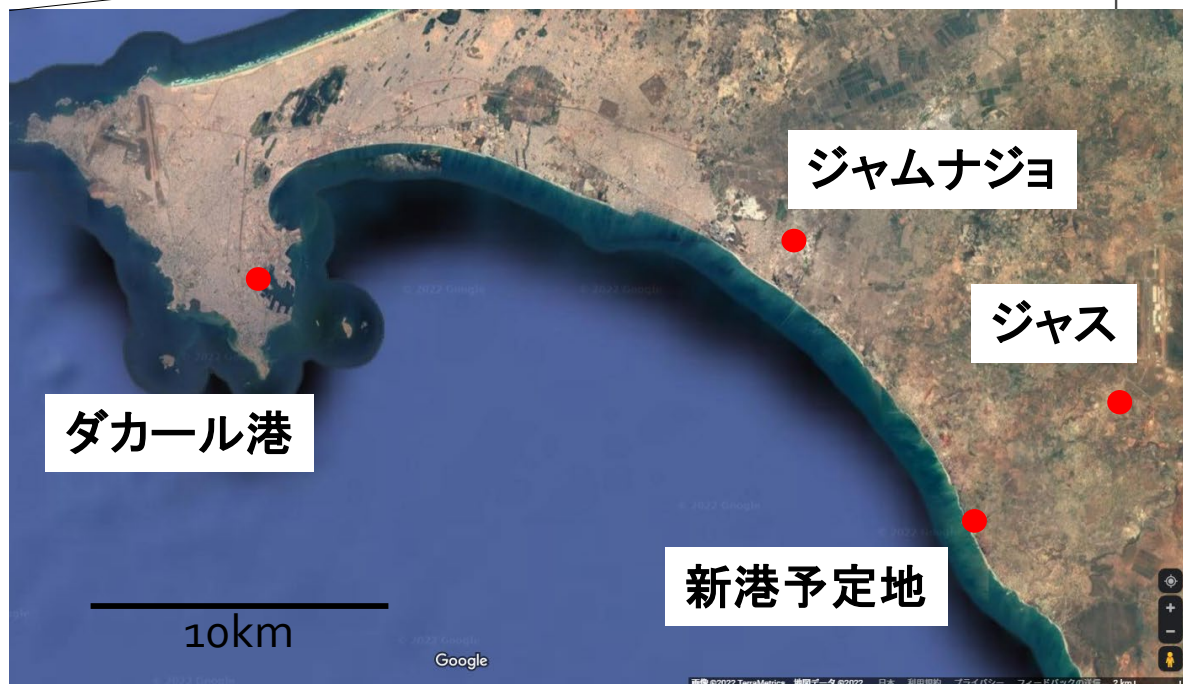
- 物流インフラの整備を通じてセネガル及びマリ等内陸国の経済活動を持続的に発展させる戦略として、ダカール港の機能強化・効率化が図られているが、増大する貨物取扱量に対し、ダカール港は市内中心部に位置していることから大規模な改修や拡張は困難。
- 国家開発計画「セネガル新興計画 (Plan Sénégal Emergent / PSE)」の優先プロジェクトの一つとして、ダカールの南東約45 km、新興都市ジャムナジヨ(Diamniadio)、経済特区のジャス(Diass)等に近いンダヤンに、多機能港湾の開発を構想。

【ンダヤン多機能港の必要性】

- コンテナターミナルは民間企業 (Dubai Port World、以下DP World) により建設に着手済み。複数の港湾マスタープラン (AFD: ダカール港、Enabel: セネガル全土等) が策定されたものの、新港の構想実現に向けた全体ロードマップや施設内容、アクションプラン等を含む計画が存在せず、新港開発構想を具体化するための総合的なマスタープランの策定が喫緊の課題。

1. 事業の背景

ダカル港とンダヤン（新港予定地）の位置関係



（出典：Google maps）



（出典：外務省HP）

1. 事業の背景



上図：新港予定地（河口か所、左図●地点）
パノラマ（JICA撮影、2021年）



左図：新港予定地（黄色で囲まれた範囲）と周
辺の町
（出典：Google Earth）

2. 事業の概要

【事業スキーム】

開発計画調査型技術協力

【事業目的】

ダカール港の港湾機能等を整理し、構想中のンダヤン多機能港開発マスタープランを作成することにより、本マスタープランに基づいた新港の適切な整備と、船舶の大型化や貨物量の増大に見合った効率的な港湾運営を図り、セネガルの国際競争力の向上と、西アフリカ地域の物流ハブとなることに寄与するもの。

【対象地域】

ンダヤン港予定地周辺

【相手国実施機関】

ダカール港湾公社 (Port Autonome de Dakar / PAD)

2. 事業の概要

【事業内容】

- 新港開発マスタープランの策定（目標年次2047年）
- 新港の短期整備計画（Pre F/S）（目標年次2030年）
- 技術支援
 - PAD職員の長期人材育成計画
- 環境社会配慮
 - 関連法規・諸制度等を確認し、戦略的環境アセスメント（以下、SEA）を実施
 - 環境社会影響分析（優先プロジェクトにおけるスコoping）

2. 調査の概要

ンダヤン多機能港マスタープランイメージ図



(出典: Presentation Ndayane MARS 2021 CA PAD : MasterPlan du port de Ndayane)

2. 調査の概要

【マスタープランの内容】

- ① 社会経済フレームの設定、戦略的環境アセスメント報告書の作成、戦略的環境アセスメントの考え方に基づいた環境社会影響も含めた代替案の比較検討
- ② セネガルにおける港湾開発に係る基本方針の策定
- ③ 将来需要予測(国際・国内、旅客・貨物)
- ④ 大型船舶の寄港可能性に係る検討
- ⑤ 周辺国を含めた海上輸送ネットワークシナリオの検討
- ⑥ 新港のロケーションの技術的見地からの適正確認
- ⑦ 既存のダカール港と新港の役割の整理
- ⑧ 新港開発計画の作成(担うべき機能・役割の設定と配置、現状の課題の抽出、主要施設規模、隣接地の港湾関連施設)
- ⑨ 静穏度解析
- ⑩ 優先整備施設の検討
- ⑪ 維持浚渫に係る検討(堆砂解析を含む)
- ⑫ 本マスタープラン計画の実現に向けたアクションプランの策定
- ⑬ 需要と資金計画に基づく段階整備計画の策定
- ⑭ 港湾運営管理に係る組織体制・制度(PPPの活用を含む)の検討
- ⑮ PAD職員の能力向上のための長期戦略策定

2. 調査の概要

【新港の短期整備計画(Pre F/S)の内容】

- ① 施設配置計画の検討
- ② 概略設計の検討
- ③ 施工計画の検討
- ④ 概算事業費の積算
- ⑤ 事業実施計画の検討
- ⑥ 経済財務分析及び評価
- ⑦ 環境社会影響分析

3. 環境社会配慮基本事項

【適用ガイドライン】

- ・ 国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月公布)

【カテゴリ分類】

- ・ 分類:A
- ・ 分類根拠:ガイドラインに掲げる港湾セクターに該当するため。

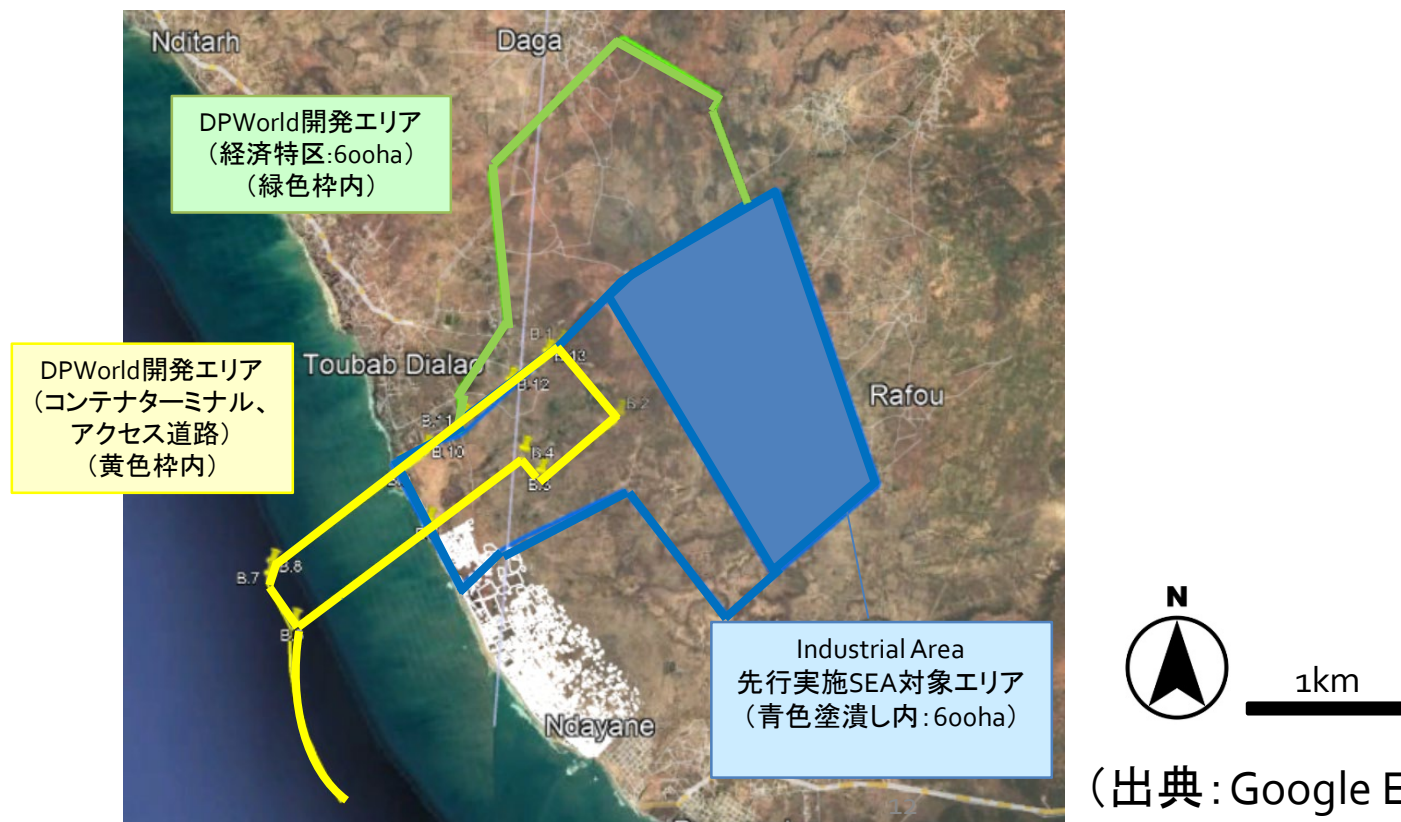
【環境許認可】

- ・ SEA手続きはセネガルの法令に基づいて実施される。手続き開始前に「プロジェクト通知(プロジェクト概要的なもの)」とSEAの調査内容を示したTORを提出し、DEECで承認される必要がある。

※DEEC:環境教育局(Direction de l'Environnement et des Etablissements Classes)

4. 環境社会配慮の概要

- 本マスタープラン対象地域(下図青、緑、黄色枠内)
- DPWorld開発区域のうちコンテナターミナル及びアクセス道路(黄枠内)はすでにEIA作成済、開発開始。
- Industrial Areaについて、PADがSEAを一部先行実施(下図青塗り潰し内、約600ha)。



(出典: Google Earth 調査団作成)

4. 環境社会配慮の概要

【SEA実施方針】

- 既にセネガル側環境省に対して、Industrial Areaのみ(前スライド図 青枠内)を対象としたSEA手続きが正式に開始されていることから、途中まで作成されたSEAを本調査にてレビューする。
- DP World開発区域(緑、黄枠内)及び短期整備計画(予定)対象部分もカバーする形でSEAの範囲を拡張する、または新規に手続きを開始する提案が受け入れられるか、環境省と協議を行いSEAの作成範囲を最終化する。

【留意点】

- セネガルの国内法上、EIA実施済の地域においてSEAを実施することは不可能であることから、DP World開発区域(黄枠内)は所与のものとする。
- DP World開発区域(緑、黄枠内)に対してはJICAガイドラインとのギャップ分析を実施し、乖離が生じている部分については本マスタープランの中で申し入れ乃至提言を行う。

4. 環境社会配慮の概要 (Master Plan SEA)

■SEAで主に検討対象とする項目案

【全般】

- ・ セネガル国法制度の確認、代替案検討、スコーピング、情報公開等

【汚染】

- ・ 開発に伴う事業実施区域周辺の海域水質への影響、濁水処理、廃棄物処理、騒音等

【自然】

- ・ 陸域及び海洋生態系への影響、周辺保護区への影響

【社会】

- ・ 事業実施区域周辺(特に周辺の漁村)に対する社会経済的影響
- ・ 事業実施区域周辺の海運及び陸運の影響
- ・ 事業実施区域内の住民移転・用地取得の影響
- ・ ステークホルダー協議

4. 環境社会配慮の概要（短期整備計画）

短期整備計画（目標年次2030年）の対象施設、規模、配置は現時点で確定しておらず、環境社会影響については今後確認する予定。

- 可能性のある事業・施設としては、以下のとおりである。
 - 海上埋立（護岸、岸壁、ヤード）
 - 道路、港内道路
 - 浚渫（DPWorld分以外の追加）
 - 建物（管理棟、倉庫、ゲート等）
 - 港湾背後の開発（造成）
 - 雨水排水施設
 - 荷役機械（コンテナ以外を対象）

- 想定される環境社会影響：汚染対策（大気汚染、水質汚濁、廃棄物、土壌汚染、騒音・振動、地盤沈下、底質）、自然環境（水陸生態系、水象、地形・地質）、社会環境（用地取得・非自発的住民移転、生計回復支援等）

5. 助言対象

本事業については以下の通りMP策定段階、短期整備計画段階の2段階で助言を求めることとする。

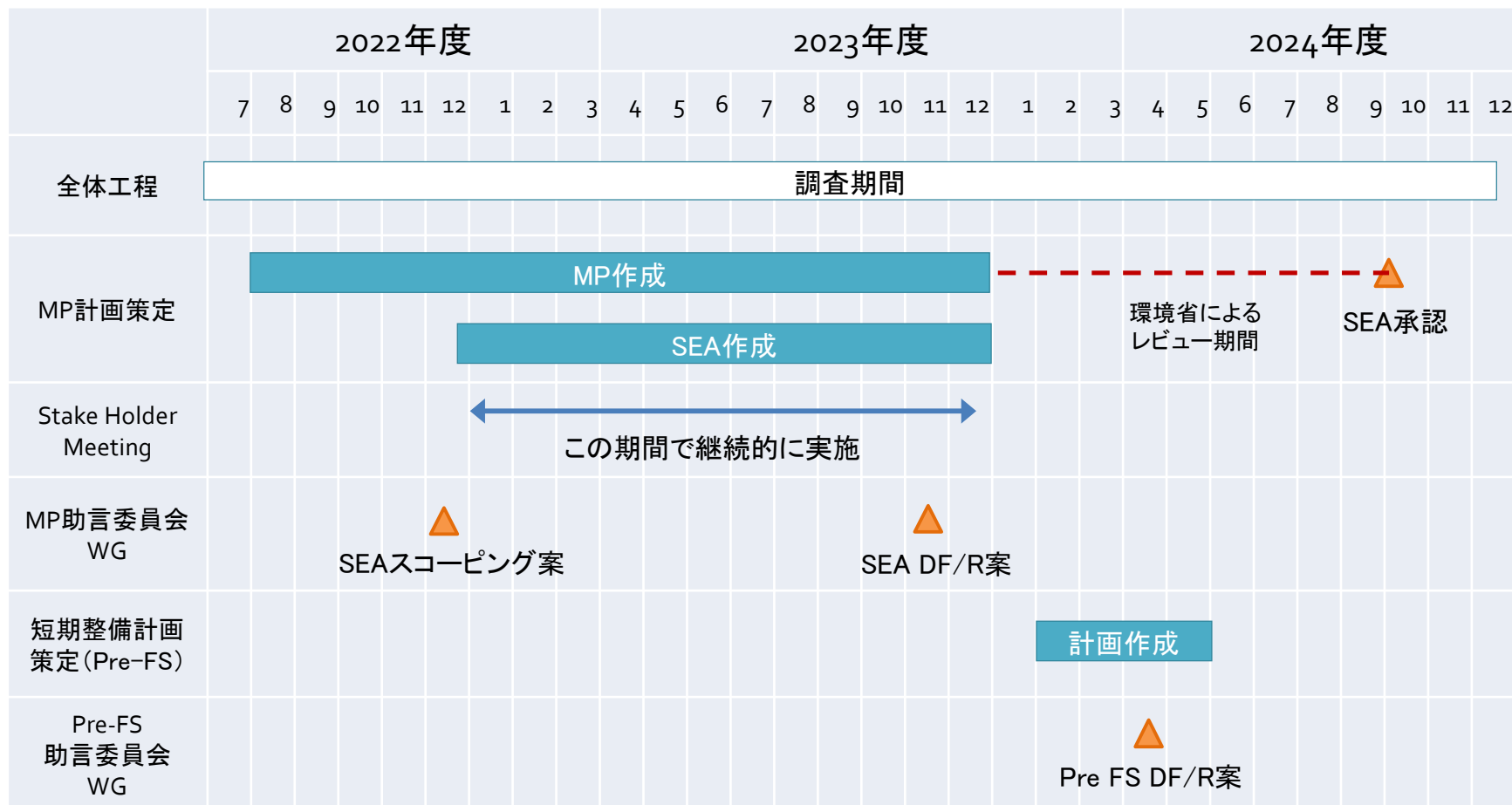
【マスタープラン段階】

- 戦略的環境評価(SEA)のためのスコーピング
- SEA報告書案(マスタープラン(MP)DF/R案)

【短期整備計画(Pre F/S)段階】

- 短期整備計画(Pre F/S)のスコーピング
- 短期整備計画(Pre F/S) DF/R案

6. 今後のスケジュール（MP予定）



- 助言委員会WG (MP-SC案) 2022年12月後半頃予定
- 助言委員会WG (MP-DFR) 2023年11月頃予定
- 助言委員会WG (Pre F/S DFR案) 2024年4月頃予定₁₇